# 平成30年度学内版 GP 成果報告書

<table>
<tr><td>取組名称</td><td colspan="2">学芸員養成課程の授業・実習等と自然科学館の連携プロジェクト：<br>学術標本・教材標本作成および自然科学館内・館外サテライト出展の試み</td></tr>
<tr><td>実施組織<br>（または対象のカリキュラム）</td><td colspan="2">理学部・自然科学館</td></tr>
<tr><td>※連携する他学部・機関がある場合は記入</td><td colspan="2">国立科学博物館，地域の博物館，長野県植物研究会，松本市コンベンション協会，ほか</td></tr>
<tr><td>実施責任者(所属)</td><td colspan="2">東城　幸治　（　理学系　）</td></tr>
<tr><td>取組の目標</td><td colspan="2">学生が主体となり，自然科学館所蔵の標本の維持管理や新規標本作成に取り組むとともに，館外サテライト出展を試行する</td></tr>
<tr><td>1.<br>目標達成のために行った活動と成果<br>（箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする）</td><td colspan="2">１．学芸員養成講座や理学部開講の授業において，博物館標本の重要性を理解することや，博物館標本作成の実践機会を設けた（博物館実習 I，博物館資料論，系統分類学，系統分類学実習，基礎生物学実習にて実施）．学芸員職に就いている本学卒業生（白瀧氏，朝倉氏）にも協力いただき，ゲストスピーカーとして学芸員職の実態をお話しいただいた<br>２．博物館試料の維持管理・運営に学生が主体となり，自然科学館収蔵標本のうち，2.75 万点の植物標本を GBIF（S-Net）へ登録した<br>３．学生が作成した恐竜の骨格標本を附属病院・附属中央図書館にてサテライト展示した</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2.<br>目標達成度に関わる所見と今後の展望<br><br>（達成の度合いを選び，そう評価する理由と今後の展望を記述）</td><td rowspan="2">a. 達成できた</td><td>（評価理由）良きロールモデルとなる現職の学芸員による授業協力を得ながら，学生の博物館試料（資料，史料）への関心を高め，学生が主体となって実際に標本の維持管理作業を実施した。とくに，国立科学博物館との連携のもとに，2.75 万点の植物標本データを国際的なデータベース（GBIF，S-Net）へリンクさせた功績は高く評価できる。自然科学館試料等の館外サテライト展示についても学生が主体となり，実現できた。</td></tr>
<tr><td>（今後の展望） 2019 年度も国立科学博物館との連携による BGIF への登録作業を継続するとともに，館外サテライト展示二関しては，信大 70 周年（松高 100 周年）事業として，より発展させる計画がある。学生主体としての様々な展開が期待される。</td></tr>
</table>